

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム すこやか
(ユニット名)	1階・2階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市東市来町湯田3007番地
記入者名 (管理者)	松元 照美
記入日	平成19年 6月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家族的な環境の下で、食事、入浴、排泄等の日常生活の中で心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して営む事が出来るように支援することを目的としている		すこやか理念として「家庭に包まれるような環境で、明るく、楽しく、元気で、心身ともに健やかに生活できるよう支援する」ことを掲げ、職員一丸となって取り組んでいる
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のすこやか会議やミーティング、勉強会などを通して、理念に沿った行動が行えるよう伝え、意識して支援する様に心掛けてもらっている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学者やご家族に理念の説明から日々の暮らしの説明を常に行っている。又、2ヶ月に1回の運営推進会議や年2回の家族会、毎月発行するすこやか便りを通して、すこやかを知ってもらえよう努力している	○	入居時に説明文書を配布し説明している。又、玄関横やスタッフルームに運営理念を掲示している。今後もすこやかの事を理解していただけるよう説明を継続したい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ボランティア活動として地域住民の皆様が週2回訪問してくださり、歌を歌ったり、紙芝居を見せてくださったりと交流を図っている。又、地域の行事への参加など行っている	○	近隣所の方からの野菜の差し入れや、ボランティアさんの訪問あり、入居者の方々とのふれあいをしている。今後も近隣所との付き合いが気軽に出来るように、声かけしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員さんや、近隣所の方との交流、保育園児とのふれあいなどを通して地域とのかかわりをもてるよう努力している。町の催し物などある時は入居者の方々に情報提供し、一緒に出かけている	○	入居者様と町の催し物のいきいきサロンへ出かけたり、小学校や集落の運動会、町体育祭などへの参加を行っている。今後も継続したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	すこやか職員も、健誠会グループの一員として、グループの行事など参加している。地域へも何でも気軽に相談して欲しい事を、すこやか便りやいらっしやる方々に口頭で呼びかけている	○	地域の運動会への参加、馬踊り、慰問の方々との交流、レクリエーションへの参加を行っている。今後も継続して交流を図っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回の自己評価をする事で、出来ている点、出来ていない点など洗い出し、次への目標にあげ取り組んでいる	○	今年度も評価委員からのアドバイスや指摘事項に、積極的に取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を昨年6月から実地している。会議ではホームの活動内容、取り組み、問題点、質問など、意見交換を通して、毎月の振り返りを行う事が出来、貴重な意見を実感し会議の必要性を深く受け止めている	○	運営推進会議で取り上げられた事を即見直し、改善できるよう取り組んでいる
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは書類手続きや運営推進会議への出席で、意見交換をしながらサービスの向上に取り組むようにしている。又、担当者にも何でも気軽に相談にのってもらえるような声かけをしてもらっている	○	市町村へのすこやか便りの配布や、市町村からの広報を利用して行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は積極的に研修会に参加し、職員へ勉強会を通して成年後見人制度の事や、権利擁護について知らせようとしているが、職員の理解はまだ薄い	○	今年度は権利擁護や虐待について職員が周知できるように勉強会の強化を図りたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、新聞、テレビでの報道をきっかけに、ミーティングを通して説明している。又、入浴時の全身チェックで痣など見過ごす事のないようにし、職員の言動も虐待にあたる可能性があることを忘れないよう、職員一人ひとりが注意していくことに努めている	○	カギを掛けない工夫として、出入り口へのブザーの設置を行った。又、職員への声かけで不満など速く知るようになる事で、事前に対応出来るように心掛けている。言葉に対しては即注意するように心掛けている。今後も注意していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は、本人、ご家族に配布し、1枚ずつ指し示しながら説明し、納得された上で同意の印を押していただいている。解約は契約者との話し合いの中で、信頼関係のもと円滑に行っている	○ 今後も契約、解約時は説明と同意を得、信頼関係が築けるよう努めていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に意見箱を設置し、毎月確認、意見を運営推進会議やすこやか会で話し合い、改善できる仕組みになっている。利用者へも不満や相談事などないか職員が声かけをし、早期解決を図っている	○ ご家族様や入居者の方々の苦情や不満は、些細な事でも職員が早めに気づき対応出来るようにしていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	すこやか便りに入居者様の暮らしぶりや、行事参加の様子、職員やご家族からの意見等を掲載、毎月1回発行しご家族へも配布している。その他、入居者について担当の職員がその月の出来事など手紙を添えて配布している	○ すこやか便りの発行とお便りの継続をする
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にはいつでも遠慮なく相談くださいと声をかけたり意見箱のこと、外部機関の相談窓口の紹介など行っている。又、入居者様からの苦情、不満は職員が聞いてホーム長に報告、その場でできることは改善している。苦情があれば運営推進会議で報告している	○ 年2回の家族会でのアンケート調査を活用、今後も継続する
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングやすこやか会議、ホーム長会議を通し、職員からの意見を聞くようにし、話し合いの中で取り入れるようにしている。毎月の健誠会運営会議に出席し経営者へ報告、相談している	○ 職員との個別面談をし、意見や助言をしていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月20日までに休みの希望があればホーム長へ提出させ、職員の希望を取り入れている。行事など人数を要するところは、柔軟に対応している	基本的に行事は全員出勤、参加としている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代が利用者へ与える影響が大きい事を配慮し、離職職員がいる時は、事前に入居者様には知らせないで、静かに去ってもらうようにしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者は法人内外の研修参加を推進している。ホーム長の計画の下に勉強会や外部研修など定期的に行い、資格を取る事を進めて、職員育成に努めている	○	19年3月介護福祉士合格1名あり、今年度も資格を取る事を目指している職員が多数いるので支援していく(介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャーなど)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム見学やグループホーム協会の研修参加などを通して、グループホームの質の向上に取り組んでいる		地域の同業者との連携で、サービスの質の向上を目指していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングやすこやか会議などを通して、あげられたことを改善するようにしている。個人個人にも何でも話が出来るよう進んで声かけし、身体面、精神面の気遣いやねぎらいの言葉をかけている		休憩時間に、交代で外出できる時間を設けることで、職員がリフレッシュできているとの事。今後も改善をしていきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の出勤簿の整理や勤務表の変更などチェックしている。内外の研修など報告書も提出させ本人へアドバイス、声かけし、良く出来ている事など褒める様にし、やる気を引き出すようにしている		「ありがとう」と「感謝」の気持ちを持って職員へ接するようにしている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の時、本人様とも面談し、ホームの見学や日常の過ごし方など説明している。入居された時点からも日々声かけて不安の解消に努めている		今後も日々の声かけや傾聴する事で、信頼関係づくりをしていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談時なんでも相談出来る事を伝え、話やすい雰囲気作りから入るようにしている。2回目からの面談・相談も、要望にあった時間や都合を聞き調整し受け入れるようにしている。		今後ご家族が面会に来られたとき、入居者様の情報や、相談を聞くようにする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の状況を把握していく中で、本人が何を望んでおられるかを良く聞き、入居時からでも取り入れることが出来る事がないか、なじみの店、理髪店、美容院、歯科、眼科など必要な支援を聞き対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雰囲気や人間関係になじめるよう見守りながら、生活リズムの変化に対応出来るよう無理な日課は組み込まないで、ゆっくりと慣れていただくようにしている。事前訪問での見学や、本人が落ち着かれるようななじみのある家具など持ち込んで頂き、在宅に近い環境を作っている	○	入居前の見学を実施、入居後1週間は行動パターンの見極めをし、担当者会議で検討している。今後も入居前の見学や意見を良く聞くようにしていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護するのではなく、入居者の方々が出来ない事を少しだけお手伝いするという気持ちで接し、入居者様から「昔取ったきねづか」を合言葉に漬物づくりや畑仕事など教えていただき事により、支えあう事を必要とする関係作りに努力している		野菜の千切りが得意だったり干し柿作りでは、入居様が十分に腕をふるわれた。今後も出来る事を聞きながら、職員も知識を深めていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と食事を作る時間を一緒に過ごしたり、外出したり、行事に参加してもらったりして、職員と入居者様との時間を共有し、ご家族の入居者様に対する思いを受け止めるようにしている	○	ご家族との面会や行事参加を通して、よりよい関係作りに力をいれたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族には、それぞれの個人の状況に合わせて面会時に声かけをしている。又、毎月の職員のお便りや、入居者様にご家族へ向けたおはがきを書いていただき送付して、ご家族とのコミュニケーションづくりをしている		今後も書中見舞いや、年賀はがきを通してご家族と良い関係が築けるようにする
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院へ行ってもらったり、お友達の面会や買い物など入居者様の要望に応じるにより、なじみの関係が途切れないよう支援している		友人からのお便りの返書書きをお手伝いしている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中にも気の合うお友達とテーブルを一緒にしたり、席順ひ配慮している。難聴の方にも職員が語りかけ、入居者様同士の会話を広げるようにしている		今後もさりげない職員の声かけや援助で会話が広がるようにする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されて契約を終了した入居者様には、病院のMSWと連携し、状態の事、ご家族のホームへの入居希望があることなど定期的に聞くようにし、要望に応じることが出来るようにしている。又、在宅に帰られた方にも、居宅のケアマネージャーを通じて情報交換が出来るようになっている	○	今後も関係機関との連携を図る
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人、ご家族にどのような暮らしを希望されるか良く聞きプランに取り上げ、スタッフ、ご家族、本人を交えたケアプラン担当者会議を開催し、希望に沿った暮らしが出来るように努力している	○	ケアプラン担当者会議の随時開催
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行う際、趣味から家庭菜園、職歴など細かい情報を聞きだすよう努めて、スタッフ間のカンファレンスを通してホームでの生活が充実したものになるよう話し合い、記録、報告連携に努めている	○	面会者からも情報を得る
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントやモニタリングで情報収集しケアプランに活かしている。職員も利用者申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている		利用者申し送りノートの活用の継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当者会議を開催し、ケアプラン作成を行っている。ご家族、本人を始め必要な人員で行っているが、時間調整したり日程が合わなかったりしたら事前に情報収集をし、ケアプランに反映できるようにしている		ケアプランを基に日課表を作成している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成は入居されたときから介護保険切り替えの時期までを基本に作成しているが、1ヶ月から3ヶ月でのモニタリングと毎月の見直しを基に変化がないか、本人ご家族スタッフの意見をききながらプランに反映させている。又、かかりつけ医や理学療法士からの情報も聞き、1年見直しではなくいつでも変更できプランに反映させるようにしている		毎月のモニタリングを行いケアプランを見直し、必要性を検討している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員により個別の記録は日々の気づきや、実践、結果など分りやすく記入している。ケアの見直しは日々の申し送り事項で活用し、情報の共有に努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診はご家族と一緒にいられる事が基本ではあるが、ご家族が対応出来ない時はホームの職員で受診できるようにしている。又、個々のニーズにもその都度対応出来るようにしている	○	病院受診や外出に今まで以上にご家族の協力をお願いしていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんはもとより地域の方々にホームの事を知っていただき、歌や、踊り、紙芝居など協力をもらっている。消防訓練も年2回実施し、緊急避難訓練など行っている	○	警察との協力関係作りをしていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	老健施設の行事などにも参加でき、ここのサービスで満足されていることをご家族からも聞くことがある。地域のケアマネジャーにも、在宅に帰れることが出来るようになれば又お世話になる事から、入居者を通して連携を続けている	○	地域の施設との連携で行事参加を増やしていく
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは今年4月より立ち上げ。今の所センターとは協働していない。	○	6月に地域包括支援センター主催の研修会あり、参加予定
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人のかかりつけ医について聞き、必要なぎりぎり継続出来るように支援している。協力病院で定期的に受診を行い、連携してホームも適切な医療ケアが提供できるよう努めている	○	今後も継続する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホーム長を中心に入居者の状況を把握し、協力病院から主治医である院長に報告、相談、助言を頂いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の外来看護師との連携で、健康管理から相談、助言など聞くことが出来る関係である		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	緊急時は協力病院である湯田内科病院と協力、入院の受け入れが出来ている。入院時はホームからの必要な情報を提供し、医師からも入院計画書の提供など受け、連携を図り安心して入院生活が送れる様心配りをし、早期に退院できるように入居者様にも励ましの声かけをしている		今後も入院する様な入居者様がおられたら、ご本人やご家族様の相談を聞いてあげられる関係をつくっていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会や運営推進会議などを通して、終末期のあり方をどのように希望されているのか、どのような対応をしていったらいいのか、現在検討中である	○	医療連携体制加算も検討中
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在病状が悪化した方は入院となっている。現在、ホームで見ていくために何が出来るのか、何が必要か、どのようにしていけるのかなど、すこやか会議などで検討している	○	昨年12月から宿直制から夜勤体制に変更し、手厚い介護を提供している
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ帰られるとき、今までの生活用品をそのまま利用され、居室の変化が少なくなるようご家族へもお話している。帰られてからも、ご家族が引き続き何でも相談できる関係である事をお話している		別のグループホームへ行かれた方の情報も、ケアマネジャーを通じて情報交換をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム長から、個人のプライドやプライバシーを尊重した言葉かけや対応が必要である事を、すこやか会議やミーティングを通して指導している。又、日常的に職員間でもやさしい言葉かけが出来るように、声を掛け合ってもらっている。個人情報についても、ホーム外では入居者の事をふれてはいけない事を厳重注意している	○ 職員一人ひとりがホームと個人情報守秘義務の契約を交わし、情報保護を守っている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の希望や選択を大事に考え、職員中心の言葉かけにならない様指導している。中には自己決定できない方が居られるが、職員がその方の気持ちになり決定している事もある	今後自己決定を尊重していきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課、流れの中で個人にあったケアプランが出来ているので、そのプランに沿って1日が過ぎている。その中で個別に行きたい所や、やりたいことなどがある時は良く聞いて、実行出来る事は希望をかなえてあげられるようにしている	今後個人対応がいつでも出来るようにする
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝の洗面から朝の身だしなみがいいか、一人ひとりに声かけをしている。服装も本人の気に入ったものを着用され、美容院も行きつけに行かれる方もいる。職員からの強制はしないようにしているが、さりげなく手直しをする事もある	外出の時はよそいき着、普段着と変化をつけ、化粧や髪への揃いれまで声をかけ、身だしなみに注意している
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアプランを通して一人ひとりの食事を把握し、状況や希望によって対応出来るようにしている。食事づくりから後片付け、茶碗洗いまで参加され、一人ひとりの出来る事を生かしたケアの支援をしている	今後個人対応を心がける
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好についてもケアプラン作成の中で情報を聞き、お酒を飲まれる方やアイスクリームが好きな方、夜間お部屋に水を用意している方など、個人に合わせた支援をしている。日々のおやつにも手づくりのお菓子や、コーヒー、紅茶などを提供している	○ 外出時にお酒を飲まれる方がいる。今後も希望に沿えるよう配慮していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人にあった排泄パターンを把握し、一人ひとりの排泄用具も提供し、声かけや誘導をしている。又、オムツを使用しないケアを目指している	○	尿取りパットや紙パンツ利用の方もおられるが、今後も個人の排泄パターンを把握し、オムツはずしに近づけるよう努力していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば毎日でも入浴は可能であり、一人ひとりに合った入浴の介助を行っている。入りたがらない入居者の方にも、気分の乗る声かけで清拭や部分浴など対応している	○	近くに温泉もあるので頻度多く利用していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室にカギをかけなければ眠れない方や、水を足元に置きたい方や10時過ぎなければ眠れない方など、個人にあった対応をしている。又、天気の良い日は布団干しやシーツ交換を職員と一緒にいき、清潔、安眠に向けての支援を提供している		今後も職員が一丸となって支援を継続していきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人にあった気晴らしの仕方、散歩や会話などご家族からの情報やスタッフの観察の中から、それぞれが得意な事を見出し、実行させている		毎日清掃でモップかけをしたり、畑の水やりをしたりと入居者様が出来る事を実行していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理の大切さは職員も理解している。その中で、個人でお金を管理されている方はもちろん、職員の管理の中で買い物を購入される方など、ご家族の理解のもとそれぞれに対応できるようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店への買い物や散歩など、個人の希望があれば職員が付き添い外出できるようにしている。又、レクリエーションや朝夕の散歩など、出来るだけ全員を戸外に出すようにしている		週2回食料品の買出しに、近くのスーパーへ一緒に出かけている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事の中で水族館の見学や桜の季節は花見、ソーメン流しや温泉など計画し実行している。又、事前にご家族やボランティアの方々にも呼びかけ、一緒に出かけている	○	今年も花見や水族館の見学をしている。これからも温泉やソーメン流し、運動会、敬老会、クリスマス行事と予定があり、ご家族やボランティアの参加を呼びかけていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはもちろん、自分でかけたいとの希望があればいつでも対応している。季節の挨拶など通しハガキのやり取りを支援している。ご自分で考えられない方にも職員が一緒になって考えお手伝いし、全員が出せるように支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人など面会があれば居室で対応し、お茶や、お菓子などを出して個人がプライベートな時間を過ごしやすいように配慮している。面会時間は相談に応じて対応出来るようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にむけて職員の自覚を新たにするため、月1回のすこやか会議を通して話し合っている。身体拘束をしていないことは、ご家族へも伝え承頂いている	○	身体拘束についての勉強会をする
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることも身体拘束になることを自覚している。ホームの出入り口にはカギをかけず、ブザーを設けて入居者の方々の安全に配慮している。	○	鍵をかけないケアへの取り組みを継続する
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者さまの所在や動作時の確認は、職員がさりげなく気配り、声かけし安全に生活できるよう支援している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室では、個人が好きなように取り出しやすいところに物を置いている。ホール内で誤飲の危険性のあるものは、職員が確認し放置しない様になっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時の対応マニュアルや、研修、防火訓練などを入居者を通して職員の対応が出来るように日々研鑽している		アクシデント報告を記録に残し、検討、改善しながら事故防止に取り組んでいる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応について外部講師(救急隊員)をお願いし研修を行ったり、協力病院とも夜間の電話取次ぎ、指示など連携できている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回実施し、入居者さまも参加されている。近隣の方々にも災害時の協力をお願いしている。すこやか便りを通して訓練の様子などご家族にも知らせ、安心して過ごせるように努めている。		消防からの避難経路での指摘で、ベランダからの出入りも出来るようにとの要望に対応し、避難できるようにした
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクが伴う入居者様に限らず、入居者様のご家族へはどなたにもリスクの説明を行い、リスクが生じた時は記録を残し、すこやか会議で検討し安全な生活が出来るよう実施している。又、運営推進会議や家族会で報告している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックの中で体調の悪い方がいないか、一人ひとりの健康管理に気配りしている。異常の診られる入居者様はホーム長へ連絡し、病院受診している。他の職員へは申し送りや連絡帳を利用し引継ぎ、情報の共有に努めている		医療機関との連携で定期的な受診を行い、体調変化の早期発見に努めていきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一人ひとりの管理ができています。薬の説明書は薬が届いたときいっしょに預かり、職員が注意書きに目を通し個人ファイルに綴じています。スタッフ間も連絡帳で引継ぎ、し安全に服用されるよう連携を図っている。時間帯で個人別に服薬確認も行っている	○	薬剤師さんによる薬についての勉強会を設ける
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の健康チェックの中で、一人ひとりの排泄状態にも気配りしている。排便困難を訴える入居者様はスタッフが付き添い、腹部マッサージや水分補給など行い排泄を試みている。又、便秘についての理解をし、下剤に頼らない形で自然排便されるよう支援している		お茶の時間帯以外に、個人に応じた水分管理や繊維のある食材を使用し、食事の工夫など行っている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの実施が独りで出来る方から、声かけや誘導をしている方まで、個人にあった口腔清潔に心掛けている。義歯は夜間はずしコップに水をいれ保管、ポリドント使用で洗浄も行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフは入職時に管理栄養士の指導を受け、調理に携わっている。調理勉強会を開催し、栄養指導も入居者様を交えて行っている。体重チェックや検査結果など、定期的に確認し個人の栄養管理を実施している		風呂上りに水分補給でお茶をとりいれているが、ジュース類も取り入れていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症それぞれに対応マニュアルを作成し、スタッフでの勉強会に利用している。10月～11月と予防接種の必要な時は入居者様、ご家族の希望で実施している。又職員も全員インフルエンザの予防接種を受けるようにしている		今後も予防接種は続けていく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具、布巾などは毎日決められた手順で消毒を実施している。面会者も入り口で手の消毒を行い、食べ物の差し入れも傷んだものが残らないようご家族と共に注意している。冷蔵庫の食材も毎週痛んだものや期限切れのものがないかなど点検し、安全な食生活が送れるよう支援している	○	新鮮なもの、安価なものをチラシなどを活用し、入居者様と共に購入していくようにしたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや周囲に花を飾って、親しみやすい雰囲気作り心掛けています。足元周辺も段差も無く出入りでき、清潔な環境整備にも力を入れている。		玄関周りの清掃は時間にとらわれず行う
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音はその時々で個人に合わせて調整している。採光も風や雨など天気注意到しながら調節している。トイレは自動照明であるが、その他必要な所は入居者様の意見を聞きながら調整している		QC活動で光熱費節約をうたったので、利用者様と共に取り組んでみたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時間以外、自由に個人が希望することを出来るように支援している。気の合う仲間との会話や、テーブル配置の工夫など、職員が入居者様と一緒に気配りしている		畳やソファを置き、思い思いに過ごせる居場所がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物を持ち込んでいただくよう声かけし、居室も本人が住みやすいように配置を工夫している。仏壇や位牌の持込から、テーブル、椅子など特に禁止しているものは無い。時々居室の分らない方がおられるが、それぞれ職員が目配りし誘導している		現在テレビや仏壇、位牌の持込の方もいる
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の時はもちろんのこと、入居者の状況に合わせて窓を開け換気を行っている。温度調節も気候によって空調を入れ管理している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレ、浴室など手摺りを設置し、入居者の個々の身体機能を把握して安全に配慮してある。入居者もその時々で手摺りを利用されている。廊下も広く、車椅子や、シルバーカーを利用しても安全にすれ違う事が出来ている		今年5月、さらに安全を考慮し手摺りをトイレに設置した
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の分る事、出来る事を職員が理解し、援助している。本人のわかる目印や、カレンダーへの記入など実践している	○	今後も出来る事わかる事を見極め支援していく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花を植え、水やりから草取りなど一緒に行っている。建物裏にある畑でも季節の野菜作りから収穫、草取りと入居者様と職員が一緒に活動している	○	今後も趣味活動の協働作業をして行く

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の生活の中で一番の楽しみは食事。日々のメニューを工夫しながら美味しい食事作りに取り組んでいる。屋内でバイキング、バーベキュー、ソーメン流しを実施。課外活動でふれあいセンター温泉入浴や、施設訪問として水族館や仙巖園の見学など、入居者様との外出の機会をなるべく多く企画している。職員も勉強会や、研修、QC活動等でケアの質の向上に努めている。グループホームすこやかは静かな住宅街に位置し、周りには公園や商店、温泉宿が数多く存在し、自然環境にも恵まれていることから、ご家族や入居者の方々に喜ばれている。